

平成28年度 各種調査結果等を活用した学力保障の取組事例

事務所名	宮古	学校名	宮古市立河南中学校	TEL	0193-62-2602
------	----	-----	-----------	-----	--------------

認め合い、学び合う生徒の育成をめざした授業改善の取組

【今年度の目標】

- すべての教科において、授業アンケートの「よくわかる」の割合を増やす。
- 「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか」の肯定的回答を増やす。
- 「先生やまわりの人は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」の肯定的回答を増やす。
- 学力調査において
 - <1学年> 県平均を上回るようにする。
 - <2学年> 各教科・領域で県平均に達するようにする。
 - <3学年> 全国学調において各教科A問題、B問題とも全国平均を上回るようにする。

【組織的な対応を図る上で工夫した点】

1 “目ざす生徒の姿”の共通理解を図る

(1) “目ざす生徒の姿”を共有する

「かかわり合いを大切にし、認め合い、学び合う生徒の育成～ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業展開を通して」という研究主題を具現化するために『いわての授業づくり3つの視点』をもとに授業で“目ざす生徒の姿”を共有し、各教科の授業で目ざすものを明確にした。これまで取り組んできた学び合いの場面だけでなく、課題と振り返りを授業に位置づけ、言語活動を重視した思考力・判断力・表現力を培うための授業づくりを意識した。この<目ざす生徒の姿>に<指導の留意点>を加え<研究の具体的方針>と合わせた研究の資料を、A4判1枚で作成して職員会議で共通理解を図り、研究会や教科部会のたびに提示して、私たち教師が常に意識できるようにした。

(2) 授業研究会における成果と課題の明確化

“目ざす生徒の姿”から視点を2つに絞って授業を参観し、研究会ではグループ討議を行うこととした。視点については、教科の特性や内容、授業者の意図が影響するため授業者と研究担当が話し合って決める。視点をもって授業を観ることで、参観者にもそれらの視点が意識され定着が図られると考えた。

校内で共有した<目ざす生徒の姿>

<p><研究の具体的方針></p> <p>授業において他と関わりあう中で「学び合い」を促進し、自己を高める生徒を育てることをめざす。</p> <ol style="list-style-type: none"> 授業の展開場面にユニバーサルデザインの「共有化」を積極的に設定する。 学び合う授業の基礎となる親和的な（コミュニケーションが密な）学級集団づくりを推進する。 	
<p><目ざす生徒の姿></p> <p>1. 学習課題を設定し、学習のゴールを見通す</p> <p>①この時間で何ができるようになればよいのか、何がわかればよいかをつかんでいる。</p> <p>2. 学習課題の解決に向けて、学習内容を見通す</p> <p>②課題が、自分にとってどのような意味（役立つ、楽しいなど）をもつかを理解している。</p>	<p><指導の留意点></p> <p>◎一人一人が、自分の学習課題としてとらえることができるように工夫する。</p> <p>◎身に付けさせたい力、学習活動、時間内に解決できることを意識した学習課題とする。</p> <p>◎指導者が、学習課題の解決に取り組んでみた上で、学習内容や学習プロセスなどを構想する。</p>
<p>課題設定</p>	<p>3. 学習課題を解決するために学習活動をする</p> <p>③自分の考えをもって、ペアやグループ・全体での学習に臨み、自分の考えを発表したり友達の考えを自分の考えと比べながら聞いたりしている。</p> <p>④わからないことは、自分で調べたり友達や先生に質問したりしている。</p>
<p>課題解決</p>	<p>◎学習課題を解決するための手立てや視点、学習活動の方法について具体的に指導する。</p> <p>◎学習課題を解決するために、主体的・協働的な学習展開となるように工夫する。</p>
<p>振り返り</p>	<p>4. 学習内容を振り返ったり学習の成果を実感したりする</p> <p>⑤授業を通してできるようになったこと、できなかったこと、わかったこと、わからなかったこと、興味をもったことなどについて、自分の言葉で説明している。</p> <p>5. 学習プロセスを振り返ったり、協働的な学習活動のよさを実感したりする</p> <p>⑥どのようなプロセスによってどのように変化したのかなどについて、自分の言葉で説明したり、「友達から学ぶことができた」など、学習活動のよさを実感したりしている。</p>
<p>振り返り</p>	<p>◎学習の見通しで見通したゴールや学習内容、学習プロセスに照らして、振り返られるように工夫する。</p> <p>◎一人一人が自分の学習について、達成感や有用感を自覚できるように工夫する。</p>

例) 第2回校内研<数学>における視点

- 【課題解決】○自分の考えをもってペアや全体での学習に臨んでいる。
 - 分からないことを、自分で調べたり友達や先生に質問したりする。
- 【振り返り】○かかわり合うことのよさを実感している（言葉でまとめている）。

2 ユニバーサルデザインの視点を加えた授業改善に向かうために

(1) 学び合いを柱とした授業改善

本校ではここ数年、Q Uを活用した生徒理解を基盤とする「学び合い」に取り組んできており、グループの話し合いの場を授業に位置づける取組を行ってきている。昨年度は教え合う活動が授業だけではなく、テストに向けた学年や委員会の取組としても加わり、生徒たちの学び合いに対する意識が向上してきている。学び合いには、一斉指導のときよりも周囲からのフィードバックを得られる回数が多くなるというよさがある。かかわりあい、認め合うことが生徒の自己肯定感を高めることにもつながり、学習への意欲づけだけではなく、生きる力にもつながっていく。今年度は、学び合いをどのように活用するかは教科や各教師で工夫することとし、どの教科でも授業に学び合いの場を設定して取り組むことを確認した。

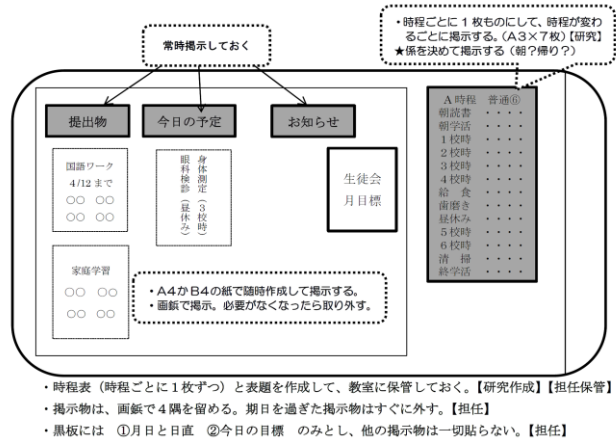
(2) ユニバーサルデザインの視点からの授業改善

生徒が学習に集中できる環境を整えるため、年度初めの会議で下記の内容の共通理解を図った。

板書について（共通理解事項）

- ・基本的には白のチョークを使用する。
- ・大切な箇所は黄色いチョークで書く。
(赤いチョークで文字は書かない)
- ・課題は黄線で囲み、まとめは赤線で囲む。
⇒ 学習課題、まとめのプレート
- ・教室の後ろの席からも分かる大きさに書く。
- ・分かりやすいレイアウトにする。
- ・必要に応じて、ノートをとる時間をとる。

板書に関する共通理解事項



教室前面の掲示板の使い方を示した資料

3 基礎的・基本的な知識・技能の定着を図るために

(1) 授業と連動した家庭学習の推進【教科担任と学級担任の連携】

家庭学習の指導は教科担任が行うが、家庭学習ボードに各教科の課題を記入して終学活で確認することによって、全体量の把握を学級担任が行うこととした。授業と連動した家庭学習を教科担任が継続して指導することで、基礎的・基本的な知識や技能が定着することをねらいとした。

(2) 教務主任と研究主任の連携

昨年度までは、定期テスト前の部活動停止期間を中心に行っていたが、今年度は週1回、学習優先日を目標に補充学習を定期化することとした。行事や諸活動が入ってくるため実施の難しい時期もあったが、教務主任と連携して週予定にも組み込み、補充学習の時間を設けることとした。

【具体的な取組】

1 校内研究会で“目ざす生徒の姿”を具現化し、一人一授業の実践へ

(1) 指導案検討会の実施

授業研究会の前に、指導案検討会を実施し、指導主事のほか、必要に応じて研究部が入って内容を検討した。“目ざす生徒の姿”を具現化することや、ユニバーサルデザインの視点からの授業の流れ、板書などについて検討することで、目ざす生徒の姿のイメージ化を図ることができ、他の教師にも広げることができた。数学のほか、音楽の研究授業でも、既習内容と本時の内容を比較して視覚的に違いをとらえさせ、課題につなげるなどの工夫が見られた。

(2) 学び合いのよさを教師自身が体験する

授業研究会のグループ討議は、3～4人のグループをつくり、授業参観時に付箋紙に記入してある成果と課題を発表し合う。話し合いの手法はブレインストーミング方式とした。批判されたり否定されたりしない、自分の考えが活かされる体験をすることにより、学び合いのよさを教師自身が体験できるものである。回数を重ねるごとにグループ討議も活発に行われてきている。

<ブレインストーミングによる話し合いの原則>

原則1：批判厳禁 …他人の意見を批判しない

原則2：自由に発想…どんな突飛なアイデアも歓迎する

原則3：質より量 …たくさん出し合う中から質のよいものが出る

原則4：改善発展 …他の人の意見に自分の考えを加えて改善する



(3) “一人一授業”の実践交流

4月の教科部会で各自の授業予定月を決める。授業月が近づくと、それをもとに研究担当が働きかけて授業日を決定して週予定に組み入れていくしくみである。参観者は“目ざす生徒の姿”をもとに、成果と課題を記入し、授業者に渡しポートフォリオ形式でまとめていく方式をとった。

参観は、校長、副校長を中心に授業のない教師が無理のない範囲ですることとしている。課題と学び合いの場が位置づけられており、授業者の授業改善に対する意識が高められる場となっている。

2 ユニバーサルデザインの支援の理解から実践へ

拡大校内研として、ユニバーサルデザインを視点とした授業づくりについての講演会を実施した。ユニバーサルデザインの支援の必要性を考えたり、具体的な支援を体験できたりしたことで、支援のイメージが広がり、授業の中でどのような支援をしていけばよいかの理解を深めることができた。

その結果、各教科においてだけでなく、道徳の授業においてもユニバーサルデザインの視点が意識された指導がなされるようになった。生徒たちに分かりやすい構造的な板書が成果として挙げられる。校内だけでなく他校からも多くの先生に参加いただき、ユニバーサルデザインの支援について地域に発信することができた。

【構造的な板書の例】



2年数学「連立方程式」



2年道徳「二通の手紙」

3 基礎的・基本的な知識・技能の定着を図る

(1) 家庭学習の指導～学級担任と教科担任が連携して次のように指導を進め、実のあるものにしていく。

- ① 1学年の1学期末試験までは小学校で行われている「ひとり勉強ノート」方式とし、学級担任が指導にあたる。ポイントは、中学校で必要とされる家庭学習習慣（時間・方法）の形成である。1学期末試験以降、教科担任指導に移行していく。
- ② 家庭学習ボードに内容を明記し、学級担任が総量を把握できるようにする。
- ③ 効果的な家庭学習ノートを紹介する。
- ④ どんな家庭学習をすれば効果的かの情報交換を定期的に行う。

(2) 補充学習

低位層の生徒への指導を行うため、定期テスト前、長期休業中のほか、毎週月曜日を学習優先日として補充学習を設定した。学年ごとに教科担任が主導で30分程度実施する。

【成果】

《諸調査の結果から》

学力調査の経年比較（中2）

教科	観点（領域）	H27 新入生（4月）			H28 県学調（10月）		
		河南中	岩手県	県比較	河南中	岩手県	県比較
国語	書くこと	54.7	55.5	98.6	60.7	55.2	110.0
社会	社会的な思考・判断・表現	—	—	—	41.3	40.4	102.2
数学	数学的な考え方	57.2	63.3	90.4	39.6	39.5	100.3
理科	科学的な思考・判断	—	—	—	43.1	43.0	100.2
英語	表現の能力	—	—	—	21.7	21.1	102.8

学力調査質問紙に「あてはまる」と答えた生徒の割合の比較

質問項目（中2）		H27 新入生学調（4月）			H28 県学調（10月）		
		河南中	岩手県	県比較	河南中	岩手県	県比較
1	学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり広げたりすることができていると思いますか。	—	—	—	47	40	117.5
2	先生はあなたのよいところを認めてくれていたと思いますか。	64	51	125.5	—	—	—
3	先生やまわりの人はあなたのよいところを認めてくれていると思いますか。	—	—	—	49	37	132.4
4	自分にはよいところがあると思いますか。	23	23	100.0	28	24	116.7

質問項目（中3）		H27 新入生学調（4月）			H28 県学調（10月）		
		河南中	岩手県	県比較	河南中	岩手県	県比較
1	生徒（学級の友達）の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり広げたりすることができていると思いますか。	42	38	110.5	32.1	25.2	127.4
2	先生はあなたのよいところを認めてくれていたと思いますか。	—	—	—	52.4	32.3	162.2
3	先生やまわりの人はあなたのよいところを認めてくれていると思いますか。	30	21	142.9	—	—	—
4	自分にはよいところがあると思いますか。	23	23	100.0	33.3	20.1	165.7

○中2の学調の結果から、国語の【書くこと】、社会の【社会的な思考・判断・表現】、数学の【数学的な考え方】理科の科学的な思考・表現】、英語の【表現の能力】において、すべて県平均同等以上の結果となった。昨年度実施された新入生テストの結果と比較すると、国語と数学は県比で10ポイント前後の伸びが見られており、成果が上がったと言える。これは、学び合いを継続してきたことにより、思考力・判断力・表現力がついていることを示すものととらえられる。

○「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか」について、中3の結果を県比で比較すると昨年度から20ポイント近く増加している。中2では昨年度との比較はできないが、県平均を上回っており、半数近くの生徒が学び合うことのよさを感じている。

○「先生はあなたのよいところを認めてくれていたと思いますか」「先生やまわりの人はあなたのよいところを認めてくれていると思いますか」の項目では、中2では半数近く、中3で3割程度の生徒があてはまると答えている。「自分にはよいところがあると思いますか」では、昨年度と比較して中2では5ポイント、中3では10ポイントの上昇が見られ、およそ3割の生徒が自分にはよいところがあるのとらえている。認め合い、学び合う関係を構築することによって、自己肯定感を高めることにつながっているととらえることができる。

《教師の変容の視点から》

○“目ざす生徒の姿”や板書のしかたなどを全教師で共通理解を図ったことにより、課題と振り返りを位置づけた授業が意識されてきた。

○課題設定については、既習内容と本時の学習内容を比較するなどの工夫が見られるようになり、課題を明確にしようとする意識が高まってきた。

○ユニバーサルデザインの視点である視覚化を意識した授業がなされるようになった。

《生徒の変容の視点から》

○生徒が「わかること」「わからないこと」を自覚し、授業の中に学び合いの場を意図的に設定することにより、自己肯定感の向上や学力の底辺の底上げにつながった。

○構造的な板書により、生徒のノートづくりへの意識の向上や、知識・理解の定着につながった。